

日本計量生物学会 ニュース・レター No.14

1985年3月

目 次

- 第12回 国際計量生物学会議を終えて (林 知己夫)
- 第5回 総務部会議事録
- 第6回 総務部会議事録
- 第2回 組織委員会議事録
- 第3回 組織委員会議事録
- 事務局から
- ◆1985年度年会案内

第12回国際計量生物学会議は、本学会と日本学術会議の主催、文部省後援の下に、昭和59年9月2日～8日京王プラザホテルにおいて開催された。初日は登録と顔合せのレセプション、2日目は開会式と研究発表4日目は見学、あとは研究発表と討論という日程であった。参加者は506名、同伴者46名、参加国は27ヶ国であった。参加研究者のうち日本人は327名、海外から179名であった。そのうち多いものをABC順にあげれば、オーストラリア、カナダ、中国、英国、フィンランド、フランス、インド、オランダ、アメリカ、西独であり、少数であるが、東南アジア、中南米、アフリカからの参加があったのは、嬉しいことであった。

会議の内容は、招待論文セッション、一般研究発表（口頭及びポスターによる発表）のセッションがあり、前者では31、後者では188（内ポスター発表26）論文であった。内容は多岐にわたり、具体的な各研究分野に深く関連するものから方法論の基礎にわたるものであった。招待セッションの主題はプログラム委員会で、今日最も重要で研究者の関心を集めているものという観点から決められるものであるが、今回は14であった。どこが焦点かと言われれば「コンピュータの発展を背景とした、

統計的、計量的方法の展開」「複雑であいまいさを蔵した生物現象へのアプローチの方法の探索」ということが出来よう。一般の研究発表はさらに多彩で、医学統計の方法論的基礎へ問題から始まり、ライフサイエンスの多くに係わり具体的な医療の問題に及んでおり、類似したものをあつめ、37のセッションが作られた。ポスターセッションという発表方法は有効なものと思われた。特にマイコンを置いての動きのある発表などの視覚を活用しての発表は効果があったものと思う。全体的に発表は「解らせようとする」工夫が多く見られたのは好ましい傾向であった。バイオメトリックスの多彩な展開がよく解り、日本人の優れた研究内容が多く紹介され評価されたこと、研究交流が多く面にわたって展開されたことは大きな成果であった。

会議を終ってふりかえてみると甚だ盛会であった。研究交流や人の交流の上でまた今後の国際交流の点からみて、開催した甲斐があったと思う。多くの方々のご協力に深く感謝するものである。内外の参加者に高く評価され、Bulletinや公式の文書に大変よい会議であったと書かれており、参加のバイオメトリックス学会の役員からも多くの賛辞をいただいた。次回は1987年7月末シアトルのワシントン大学で開催されることになった。

第12回
国際計量生物学会議を終えて
会長 林 知己夫

第12回国際計量生物学会議

第5回 総務部会議事録

日時：昭和59年7月12日(木) 14:00~20:30

場所：東京理科大学

出席者：奥野、井山、大橋、佐久間、正法地、椿、
長谷川、廣崎、山本俊一／栗原、末益、
坂尻

議事：

1. Final circular 印刷完了、発送済みの報告
2. Scientific tour の案について協議する。
3. 開会式のスケジュールについて：
壇上に並ぶ人の決定。
会長 Dagnelie氏から約30分の基調講演をした
いとこの申出をプログラムに組入れる。
4. 会場要員としてある程度人数が必要なので東
大、理大、医科歯科大、中央大学等の学生を動
員することをきめる。

第6回 総務部会議事録

日時：昭和59年8月20日(月) 10:00~12:00

場所：日本学術会議

出席者：奥野、浅井、井山、大橋、佐久間、
正法地、鈴木、竹内、椿、長谷川、廣崎、
山本俊一／栗原、末益、坂尻、吉田

議事：

1. 組織委員会を前にして準備状況の確認をする

第2回 組織委員会議事録

日時：昭和59年8月20日(月) 12:00~14:00

場所：日本学術会議

出席者：林、浅井、飯淵、井山、奥野、川崎、
工藤、駒澤、斉尾、佐久間、佐藤、
正法地、鈴木、竹内、角田、長谷川、
菱沼、廣崎、福島、福富、古川、山田、
山本俊一、山本純恭／栗原、阪東、山本、
足立、末益、坂尻、吉田

議事：

1. 奥野事務局長から参加者数の報告があった。
現在、登録者302名、同伴者52名で、日本人は

その内145名。

2. 続いて募金状況の報告があった。学術会議か
らの国費援助と万博からの補助金(400万円)
以外に2,500万円ほど集まる予定。
3. 予算の修正部分についてICSより説明があっ
た。
 - (1) 庁費では、印刷製本費が増強された。
 - (2) 旅費のうち、招待の外国人旅費については、
ソロモン氏の案により1,400万円に決定した。
事前に航空券を送ることはしない。
 - (3) 同時通訳を Invited Session の一部屋のみ
にしたため、会議費が大巾に削減された。
4. 当日の会場運営
 - 1) 開会式での壇上着席者について、以下のこ
とが検討された。
 - ① Local Organizig Committeeのメンバ
ーは壇上に上らない方が良いのではないかと
いう意見が竹内委員からあった。
 - ② その代わり学術会議から数人出てもらう
ことが考えられる。
 - 2) バンケットの出し物が阿波踊りに決定した
ことが報告された。
 - 3) 会場運営スケジュールとマニュアルの説明
がICSからあった。各委員の方から次のよ
うな意見が出された。
 - ① 会場に参加者同士の雑談の場を、ロビー
のような形で設けて欲しい。
 - ② 同時通訳者との打合わせは Lunchion
Meeting が9月3日11時半から予定されて
いるが、各 Speaker とは適宜に細かい打ち
合わせをしてもらった方がよいのではない
か。
 - ③ 日本人の Invited Sreaker には日本語の
テキストも提出してもらう。
 - ④ Daily Newsとして、その日の登録者の
氏名を掲示する、或いはInformation Desk
ですぐ調べられるようにして置く。
 - ⑤ 新聞記者の Briefing Timeを予め決めて
おく。
 - 4) 成田からの無料バスについては参加者の
Flight Schedule がある程度把握できてか
らチャーターする予定。その際成田へ案内の
掲示を出す必要がある。

第3回 組織委員会議事録

日時：昭和59年11月30日(金) 14:00～16:00

場所：日本学術会議

出席者：林、浅井、阿部、飯淵、奥野、工藤、
駒澤、佐久間、正法地、鈴木、竹内、
角田、椿、長谷川、廣崎、古川／栗原、
阪東、足立、布川、山本、末益、坂尻

議事：

1. IBC終了報告について — 林会長より学術
会議月報10月号(1984年)にのった同氏の報告
に基づき無事終了したことが報告された。
2. 決算報告について — 配布資料にもとづき報
告があり、承認された。
3. 会議報告書作成について — 英文のものは
Biometric Bulletinにくわしく掲載されている
ので改めて作らない。そのほかに必要ならば
Correspondant の鈴木茂氏に投稿して頂く。和
文のものは、次の内容で簡単な報告書をつくり
寄付者などに配る — これについては後に学振
から同種のものが出るので、それを検討してか
らにする。
 - ① 会議報告(林 会長)
 - ② 開会式の祝辞(要旨のみ)
 - ③ 会議の科学的意義(竹内プログラム委員長)
及びサテライトミーティング紹介。
 - ④ 日程及び参加人員
 - ⑤ 会計報告
 - ⑥ 寄付者リスト、謝辞(菱沼募金委員長)
 - ⑦ 数葉の写真
4. その他
 - ① プロシーディングズ(招待論文と寄稿論文
の2冊)の残部を1組12,000円(含送料)で
販売する。
 - ② 学術会議国際学術課長と林会長よりあいさ
つがあった。

事務局から

第12回 IBC Proceedings の販売

第12回 IBC の招待論文集と寄稿論文アブスト
ラクト集の2冊を1組で、価格12,000円(含送
料)にてお頒け致します。御希望の方は事務局ま
でお申し込み下さい。

会費納入のお願い

昭和60年度の会費は59年度と変わりません。

A 会員(雑誌 Biometrics を

購読しない正会員) 2,500 円

B 会員(雑誌 Biometrics を

購読する正会員) 7,000 円

C 会員(雑誌 Biometrics を

購読する学生会員) 4,500 円

B と C の会費が滞納されると、日本支部が立替
えて本部へ納入しなければなりません。お早目に
納入して下さいようお願いします。

会員募集中

学会活動を活発にするため計量生物学に関心を
もたれる方々の入会を歓迎いたします。皆様のま
わりの方にぜひお勧め下さい。事務局までご一報
下されば入会申込書をお送りいたします。

ニュース担当より

これまでニュースを担当して下さいった鳩山
由紀夫会員が政界転出のため、前号までで担
当をやめられました。これまでの献身的な奉
仕に厚く感謝したいと思います。

日本計量生物学会 1985 年度年会

日時：1985年4月20日(土) 9:30~16:50

場所：統計数理研究所

プログラム：一般講演Ⅰ 9:30~10:45

9:30~9:55 西川匡英(林業試)

樹木の空間分布と密度の推定における諸問題

9:55~10:20 石間紀男(食総研)

ある発酵工程の統計解析 — 回帰問題における非線形モデルの Identification/Specification の試み —

10:20~10:45 塩見正衛・小山信明

築城幹典(草地研)

ロジスティック式による放牧草地の予測

休憩(10分)

特別講演Ⅰ 10:55~11:55

10:55~11:55 三輪哲久(農業環境技研)

隣接区補正による農事試験の解析法 — Nearest Neighbour Analysis —

総会 11:55~12:30

昼食休憩(60分)

特別講演Ⅱ 13:30~14:30

13:30~14:30 駒沢 勉(統数研)

数量化理論と医学応用の接点について — 集団健康管理の深度化 —

一般講演Ⅱ 14:30~15:20

14:30~14:55 丹後俊郎(都臨床医学総研)

臨床検査値の正常値設定について

14:55~15:20 有田清三郎(川崎医大)

Data analysis of radioimmunoassay results using the Scatchard plot

休憩(15分)

一般講演Ⅲ 15:35~16:50

15:35~16:00 谷 春一・勘場 貢・後藤昌

司(塩野義解析センター)

多変量小標本の比較の方法と応用

16:00~16:25 大崎 純・石居房子(山口大・医)

局所振動病に対する共分散分析による検討

16:25~16:50 太田邦昌

クレード進化および文化的進化の単純なモデル

日本計量生物学会事務局

〒162 東京都新宿区神楽坂1-3

東京理科大学工学部経営工学科内

TEL (260) 4271 内線339

栗原 恵美子